

「元気に大きく育ってください」 ～地域みんなの願い～

坪井川遊水地にある「清水校区ふれあい子ども農園」での活動は、清水校区まちづくり委員会が力を入れている事業のひとつです。

今年の5月も、清水小学校の児童や保護者、地域の方々により「から芋」の苗植えが行なわれました。清水児童館「母親クラブ」の乳幼児も参加し、総勢150名ほどで、用意された約3500本の苗を1本1本丁寧に植えていきました。

苗植え前には畑を耕し、畝作りも必要です。秋の収穫までには、水やりや除草、収穫前の蔓切等々何度も作業が繰り返されます。子どもたちだけでなく、まちづくり委員会の役員さんや町内のボランティア、青少年健全育成協議会、防犯協会役員さんほか多くの方々の力で農園は守られています。8月下旬には竜南中学校の生徒や保護者、先生たちにより、朝早くから「芋の蔓上げ」と除草作業も行なわれました。



昨年の収穫祭では、子どもたちは芋ほりを楽しんだ後、清水小学校へ移動。PTAのみなさんにより用意された焼き芋や豚汁を振舞われ大満足、大盛況でした。お土産でもらったお芋は、どんな料理で食べたでしょう。大きくなってからも、お芋を食べて「子ども農園」のことを思い出してくれるでしょうか。将来は保護者として子どもたちを連れて参加してください。

お芋が大きく、たくさん育つのはもちろんですが、子どもたちが楽しく、歓声を上げながら地域の方々や作業をし、大きく、健やかに育ってくれるのがなにより願いです。



わがまち あらがると

各まちづくり交流室管内の
情報をお届けします

夏休みの北部公民館は 子どもたちで大賑わい



夏休みの北部公民館は子ども対象の講座がめじろ押し、大勢の子どもたちがやってみたい。

北部キッズ遊学塾は、自分たちがやってみたい学習や活動を自ら計画し、ほくぶボランティアサークル(HVC)のメンバーに手伝ってもらいながら活動している講座です。

今年の夏休みは、「そうめん流し」と「サマーキャンプin あしきた」を行いました。



そうめん流しは、7月27日に西里分館で実施。まずは自分の使うハシやめんつゆをいれる器を竹で作る作業から始めました。

切り出した竹を小刀(肥後の守)を使って、食べやすいハシになるよう削っていきます。小刀を使うのは初めての子どももいて、先を細くしていくのに、四苦八苦。悪戦苦闘の末、個性豊かなハシが出来上がりました。昼食では、出来上がったハシと器を使って、そうめん流しを体験。竹の樋にそうめんを流すと、歓声を上げながら楽しそうに食べていました。昼食後は、駐車場でスイカ割り。活動班対抗で競争しました。目隠しをした友だちに「みぎ、ひだり、まっすぐ」などと声をかけて誘導しますが、なかなか思うようにスイカに近づかない子もいて、会場は大盛り上がり。最後は、割ったスイカを食べ、終了しました。サマーキャンプは、8月10、11日にあしきた青少年の家に出かけました。台風の影響で、ペロン船体験はできませんでしたが、海水浴や、カヌー、浜辺の生き物観察など自然のなかでの体験活動を行い、楽しい2日間を過ごしました。

また、夏休み特別企画として、「手づくり電子ギターを作ろう」と「牛乳パックの紙すき体験教室」を開催しました。

「手づくり電子ギターを作ろう」には、13人が

参加し、熊本高専の先生の指導の下、高専の学生に手伝ってもらいながら、電子ギターを作製しました。「牛乳パックの紙すき体験教室」では、15人が参加し、牛乳パックからはがきをつくる体験をしました。電子工作、紙すき体験の両方に参加していた川上小5年の吉田純未玲さんは、「電子ギターは、配線がむずかしく、ハンダ付けでやけどしそうになったけど、楽しかった。家に持ち帰って練習したので簡単な曲が弾けるようになりました。紙すきのはがきは、縦半分に切りラミネートフィルムをして本のしおりとして愛用しています。どちらもとても楽しかったです」と話していました。



楠小キッズ善行隊、田植えに挑戦。 10月には稲刈りを体験。



「楠小キッズ善行隊」は、平成元年に結成された楠小学校のジュニアボランティア団体で、現在4年生以上の26名の児童が加入しています。毎週火・木曜日の朝7時半から校門前での「あいさつ運動」や、毎月第一日曜日を「清掃の日」として、空き缶やゴミ拾いなどの活動を行っています。

6月1日には、南小国町で田植えの体験交流を行いました。早朝、楠小学校に集合し、萩原楠校区青少年健全育成協議会会長の挨拶の後、一路南小国町へ出発し目的地の田んぼに到着。出迎えた役場の宅野課長の挨拶の後、楠小6年生の木戸さんが、「この田植えの日を楽しみにしていました。」と挨拶し、いざ田植えに挑戦。水を張られた田んぼの中に入ると子ども達は、「冷たい」「ぬるぬるする」などの歓声をあげたり、足がはまって倒れる子が続出。はじめは要領を得ない子どもたちも、同

行した先生や地元の方々の指導により、徐々に田植えが上手になり、2時間もすると5アール程の田んぼは整然と苗が植えられ、緑の田んぼに生まれ変わりました。

楠校区と南小国町は四半世紀前から交流があり、南小国町で開催される祭りへの参加や、12月には楠コミュニティセンター前で開催される朝市(南小国町の特産品の販売)を行ってきました。この交流は約20年前から子ども達にも広がり、3年前からは「楠小キッズ善行隊」と南小国町との交流が実現しました。夏休みには「キャンプ研修」、10月には「稲刈り体験交流」、12月には「餅つき」と1年を通しての交流となっています。

6年生の大田黒さんは「田植えは見てると簡単そうだったけど、実際にやってみると足が抜けず大変だった。今度は秋の稲刈りが楽しみ。」と話してくれました。書川楠小学校長は「小学校で自然の勉強をするが、『土に触れる』『水に浸る』など本物に触れ合うことや、南小国町の人や自然と交流をすることで、それぞ

れの地域の良さを発見してほしい。また、一度は地元を離れても大人になって楠校区に戻り、次の世代へとつなぐ役割を果たしてくれるような人材育成の一助になってくれればと思っています。」と善行隊への思いを語られました。



山本校区で“夏祭りが復活” 盛大に実施されました



8月16日、地元有志で結成した「山本夏祭り実行委員会」の主催で、夏祭りが12年ぶりに開催されました。

以前は地元の青年団が行っていましたが、少子高齢化の流れで若者が少なくなり、休止状態となっていました。

今回、発起人代表の石本さん、PTA会長の久富さん、肥後山本郵便局長の堤さんが山本小学校を訪れ、「だんだん児童数が減少していく山本小学校、過疎化していく山本校区を何とか元気にしたい」「子どもの頃のよき思い出になっている山本小学校での祭りを、ぜひ復活させたい」という熱い思いを語られ、山本小学校での夏祭りが復活しました。

当日は雨模様のお天気でしたが、地元実行委員の皆さんの熱意と気遣いにより雨も降らず、帰省されていた地元の出身者も含めて、多くの人で賑わいました。

地元の方による司会で、山本保育園の園児によるキンニク体操で幕を開け、山本小学校6年生によるYOSAKOIソーラン踊り、ダンススクールFunk

Fun Dance Companyの生徒さん方によるキッズダンスの披露のあと、スイカの早食い競争、ローズヴィラ米原リンクス植木の皆さんによるフラダンスの披露、のど自慢、お楽しみ抽選会が行われ、地元開店の食ブースには特産の長ナス焼きやスイカの振る舞い、野菜販売なども即売り切れ状態で、タロット占いやアジア雑貨の販売、くじ引きなど、大盛況となりました。

東京から駆けつけたペットボトルのキャップで発電できるリサイクル発電カーも登場し、興味津々の中、盛りだくさんの内容でした。

山本校区出身のシンガー東田トモヒロさんのライブは、ミラーボールや幻想的なイルミネーションの中で盛り上がり、最後は打ち上げ花火で大歓声・興奮の中終了しました。

山本校区も、少子高齢化により過疎化が進んでいます。さらに、植木すいか発祥の地であるにもかかわらず農業後継者不足や遊休地、空き家などの問題もあります。

このため現在、校区自治協議会を中心とした元気まちづくりワークショップなどを開催し、地域全体で山本校区の活性化に取り組んでいます。

今回の夏祭り復活は、企画運営から実施まで山本校区の若者層が手作りで、大成功となりました。

今後の山本校区の益々の発展と夏祭りの継続など、大きな期待が持てます！

